

平成24年度 環境研究総合推進費（委託費）申請書

※本書類は、白黒で印刷されることを前提に作成してください。

※記載例の色分けの意味

黒字：様式に初めから記載している事項

赤字：注意事項（様式には記載しない）

青字：記載例（様式には記載しない）

環境大臣

殿

平成23年 月 日

申請者

ふりがな	とうきょうとちよだくかすみがせき
所属住所	〒100-8975 東京都千代田区霞が関〇〇〇
ふりがな	かんきょうだいがく がくちょう
所属名／職名	環境大学 / 学長
ふりがな	かんきょう たろう
氏名	環境 太郎

平成24年度環境研究総合推進費（委託費）による研究事業の申請にあたり、次のとおり申請書を提出する。

①サブテーマ研究課題名	※添付資料2に記載されている【公募】サブテーマ番号・課題名を記載すること S-10 テーマ〇 サブテーマ (〇) 〇〇〇〇に関する研究	
②研究区分	戦略テーマ及びサブテーマ/戦略サブテーマ	
③予定研究期間	5年 ※該当する予定研究期間に〇を付ける	
④環境研究・環境技術開発の推進戦略重点課題上の位置づけ	・戦略課題 S-10 ・重点課題 () の行政ニーズ () (該当する場合のみ番号を記載)	
⑤特記項目 ※参照	I. 震災対応（震災復旧・復興）有■ 無□ II. SBIR...有□ 無■ III. 地域連携...有□ 無■ IV. 知財戦略...有□ 無■	
⑥サブ テーマ リーダー 情報	氏名	環境 次郎
	生年月日 ※若手枠のみ記載必須	
	研究機関名／部局／ 役職名	環境大学／環境学部 環境研究科／教授
	所属機関住所	〒100-8975 東京都千代田区霞が関〇〇〇
	E-mail (半角)	kankyo@kankyodaigaku.jp (←常に確認できるアドレスを記載)
	TEL (半角)	03-****-**** (←公募に当たって通常連絡がとれる番号を記載)
	緊急連絡先 (半角)	090-****-**** (←休日でも連絡がとれる携帯電話番号を記載)
	FAX (半角)	03-****-**** (←通常連絡がとれる番号を記載する)
	経理事務担当者氏名	(ふりがな)
経理事務担当所属名	(職 名)	
経理事務担当連絡先	E-mail (半角)	(TEL)

⑦<研究体制・組織>								
サブテーマNo.	サブテーマ名		氏名	年齢(歳)	現在の専門・学位	所属機関名／部局／役職名	H24年度研究経費(円)	H24エフォート(%)
S-10 テーマ ○	「環境による〇×に関する研究」							
サブテーマ (○)	環境における□□に関する研究	◎	環境 次郎	(40)	大気物理・博士	独立行政法人〇〇研究所〇〇研究室長	20,000,000	30
			環境 三郎	(38)	大気物理・博士	独立行政法人〇〇研究所〇〇研究		20
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・1サブテーマは1研究機関が担当すること </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・テーマリーダー兼サブテーマリーダー：◎ ・サブテーマリーダー：○ ・研究分担者：印無し </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・H24.4.1時点 を記入 </div>				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ⑩各年度別経費内訳に記載した総計を記載 </div>	
e-Rad 記載内容と一致させること								
<研究者実数> 計2名、<所属機関実数> 計1機関					<平成24年度研究経費(直接経費)> 合計 円			

※エフォート：研究者が当該研究の実施に必要とする時間の配分率(%)。研究者の年間の全仕事時間を100%とする。

※注

I. 震災対応(震災復旧・復興)との関連の有無

「添付資料1：平成24年度新規課題に対する行政ニーズについて」で、「【特別重点課題】東日本大震災からの復興に対する環境研究・技術開発からの貢献」の観点から、特に必要とされている研究テーマ(行政ニーズ)として挙げている次の①～④をはじめ、震災復旧・復興への寄与が期待される提案については、「有」にチェックを入れること。

また、「有」の場合は、「⑩行政ニーズへの貢献/環境政策等への貢献」欄に、この研究の成果により復旧・復興に向けてどのような寄与が期待されるか、記載すること。

- ①放射性物質の動態解析と汚染土壌等の除染に向けた実用技術の開発
- ②災害廃棄物の迅速・円滑な処理を目指した処理技術・システムの研究
- ③循環型社会形成を基調とした被災地の復興に向けた地域づくりに資する研究
- ④東日本大震災による生態系への影響の解明

II. SBIRとの関連の有無

推進費は、例年 SBIR^{※1}特定補助金等に指定されている。応募予定の研究による成果を利用して、中小企業^{※2}または事業を営んでいない個人(大学の研究者、新たに個人開業または会社設立しようと

する者等）が事業活動を行う予定（または可能性）があるものについては、「有」にチェックを入れること。

また、「有」の場合は、「⑩この研究における達成目標・計画・手法」または「⑫この研究の独創的な点」の欄に、この研究の成果を活用してどのような事業の形成が考えられるか、記載すること。

※1：FAQ「SBIR（中小企業技術革新制度）について」（中小企業庁 HP）

http://www.chusho.meti.go.jp/faq/faq/faq07_sbir.htm

※2：FAQ「中小企業の定義について」（中小企業庁 HP）

<http://www.chusho.meti.go.jp/faq/faq01.html>

III. 地域連携との関連の有無

地方環境研究機関、公設試験研究機関その他、地域の実情に即した得意分野を持つ団体等（以下「地環研等」という。）が単独または共同で行う（研究代表者または研究分担者のうち少なくとも1名が地環研等に所属している）研究課題については、「有」にチェックを入れること。

また、「有」の場合は、「⑩この研究における達成目標・計画・手法」または「⑫この研究の独創的な点」の欄に、この研究において地環研等が果たす役割について記載すること。

IV. 知財戦略との関連の有無

応募予定の研究・開発による成果を活用し、本研究期間中または終了後に、国際標準化や認証に向けた基準策定に係る検討を行う予定があるものについては、「有」にチェックを入れること。

また、「有」の場合は、「⑩この研究における達成目標・計画・手法」または「⑫この研究の独創的な点」の欄に、国際標準化や認証に向けた検討の予定・可能性について記載すること。

⑧研究の概要（968字以内、文字のみ）

※e-Rad 記載事項と一致させること。

- (1) 研究の内容を説明する際に、この欄の記載内容を使用する場合がある。
- (2) 研究の必要性、研究方法概要、環境政策への貢献内容を記載すること。
- (3) 複数年の研究を予定している場合は、当該年度のみだけでなく研究期間全体の概要を記載すること。

⑨研究の背景・目的（968字以内、文字のみ）


※e-Rad 記載事項と一致させること。

- (1) 関連する国内外の環境問題の状況及び研究動向など、研究を提案するに至った背景について具体的かつ簡潔に記載すること。
- (2) 国際的な科学的知見の集積における本研究の位置づけ、及び環境問題を解決するための政策（環境政策）との関連を明確にすることによって、①科学的・技術的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）、②社会的・経済的意義（環境問題を解決に導く政策への貢献、社会的価値の創出、環境と経済の好循環への貢献等）の観点から、提案する研究の必要性を明らかにすること。
- (3) 特に条約等に基づく国際的な取組や国際共同研究計画と関係が大きい場合は、該当する取組や計画の名称の他、本研究課題との関係・位置付について必ず記入すること。
- (4) 特に緊急に実施する必要がある場合は、根拠とともに客観的かつ具体的な理由を記載すること
- (5) 背景を踏まえ、本研究の全体目的を記載すること。

⑩この研究における達成目標・計画・手法（A4用紙3ページ以内）

- ※予定研究期間に応じて適宜表は追加／削除すること。
- ※カラー図表の挿入は不可
- ※サブテーマ研究課題において、テーマをサブテーマと読み替えること。

テーマの 最終目標	※研究テーマ全体で達成する目標を記載すること。 ※上記目標を達成するために構成するサブテーマ間の関係についてどのように成果を連携させ目標を達成するか記載すること（テーマリーダーのみ記載）。
--------------	---


 最終目標を達成するためにテーマ及びサブテーマ毎に以下の各年度達成目標・計画を設定する

平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ <ul style="list-style-type: none"> ※各年度の全体目標を記載すること。 ※論理的かつ簡潔な記述を心掛け、冗長な記述は避けること。また、高度な専門用語や特定の分野で用いる略号・略称には、必ず注釈を入れること。 ※枠内に適宜図表を挿入して構わない。ただし、図等をオブジェクトとして貼り付ける場合、ファイル容量を抑えるよう最大限努力すること（応募の際に e-Rad にアップロードできるファイルの最大容量は3MB。）。 ※カラー図表が挿入されている場合であっても、白黒で印刷し、評価を行う。 ●サブテーマ（○） <ul style="list-style-type: none"> ※公募に記載されたサブテーマ番号・課題名を記載すること。 ※テーマ記載内容を踏まえ、次の内容について、<u>サブテーマ毎に、具体的に記載</u>すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・サブテーマ名、研究者氏名、研究機関名 ・各年度の達成目標：上記で記載したテーマの最終目標、各年度のテーマ目標を実現するための、サブテーマの目標を記載。 ・具体的な研究内容・手法
平成25年度	※上記記載事項と同様の方針で当該年度を記載する。
平成〇年度	※上記記載事項と同様の方針で当該年度を記載する。

⑪行政ニーズへの貢献／環境政策等への貢献（800字以内、文字のみ）

- ※行政ニーズへの貢献は、上記項目④に該当する場合のみ記載出来る。該当重点課題番号・行政ニーズ番号を記載すること。

重点課題（ ）の行政ニーズ（ ）（←④に記載した内容を転記）	上記行政ニーズに対して、本研究成果がどのように貢献するか／本研究によって見込まれる環境政策等への貢献内容を記載
--------------------------------	---

⑫この研究の独創的な点（800字以内、文字のみ）

- ※委託費若手枠、補助金のみ記載必須 その他研究区分は任意（該当がない場合、該当無しと記載）

他の研究で明らかになっている点やさらなる研究を要する点、過去の経緯や現状等を踏まえて、本研究の新規性・環境研究の新たな研究手法の提供、あるいは新たな研究基礎形成の可能性等の独創的な点について、簡潔に記載すること。また、可能な限り具体的かつ客観的な記述に努めること。
--

⑬この研究に関連する事前準備状況・関連研究（800字以内、文字のみ）

本研究を提案するに当たって実施した事前の調査検討や前段階となった研究について、その研究資金制度名、研究課題名、概ねの研究経費額、調査研究の内容、得られた成果、中間評価、事後評価の結果等を、具体的かつ簡潔に記載すること。また、関連研究（研究の連携や成果の共有等、関係の大きい研究）についても、同様に記載すること。

⑭他の制度等からの助成等の有無(申請中含む)

※サブテーマリーダーが中心となっている現在実施中の研究及び申請している研究について、他の制度等からの助成等がある場合は、本申請に関連の大きい順に記載すること。

※e-Radに記載した研究に加えて、民間企業の制度において実施している研究を含めて全て記載すること。

※正しい報告が行われなかった場合は、採択を取り消すことがある。

研究制度名 (制度所管) (状況)	研究課題名	研究期間	H24年度 直接経費/ 補助要求額 (円)	エフオ ート (%)	本申請との仕分け
〇〇科研費 (文科省) (申請中)	〇〇に 関する 研究	平成24年度～ 平成26年度	3,000,000	20	〇〇を研究目的としており、本提案とは△△の 点で関連性があるものの、上記研究は主に□□ を対象としており、今回の提案は▲▲を対象と していることから仕分けされるものである。
研究助成 (〇〇株式 会社) (実施中)	〇〇に 関する 研究	平成23年度～ 平成27年度	20,000,000	30	〇〇を研究目的としており、本提案とは△△の 点で関連性があるものの、上記研究は主に□□ を対象としており、今回の提案は▲▲を対象と していることから仕分けされるものである。
↑		↑		↑	
申請中、結果待ち、研 究実施中等の状況を記 載		研究経費の 合計		研究代表者のエ フォートを記載	
↑		↑		↑	
合計				エフォート 率の合計	

⑮各年度別経費内訳（単位：円）（直接経費のみ記入すること。）

※提案した研究内容に対して明らかに過大な予算要求額は、審査の過程で評価委員に不適切な研究計画と判断される（各種評価は、研究内容及び使用した研究費との対比で行われる。）ので、実勢に従って現実的な予算額を計上すること。

※消費税等の必要経費については全て含んだ金額とすること。

年度	①(間接経費等が含ま れない経費) 1. 直接研究費の合計	②(間接経費等が含まれる経費) 2. 外注費+3. 再委託費(サブ テーマ)の合計	総計(①+②)
平成24年度	〇〇〇〇〇	△△△△	□□□□□□
平成〇年度			
平成〇年度			
研究期間全体	テーマ機関かつテーマ機関 で計上する直接経費のみ記 載 サブテーマは0を記載	2. はテーマ機関のみ記載 3. はサブテーマ機関のみ記 載	

⑩経費支出予定額内訳（円）

○テーマ研究機関に計上する経費

※テーマリーダーの所属する機関のみ記載

<p>1. 直接研究費内訳</p> <p>※直接研究経費（間接経費及び一般管理費が<u>含まれない経費</u>）を記載すること。</p> <p>※上記を前提に環境省と直接契約を結ぶ研究機関（研究代表者所属機関）経費を記載すること。</p> <p>※消費税等の必要経費については全て含んだ金額とすることに留意すること。なお、委託費については、総額に消費税が掛かることに留意すること。</p>		<p>直接研究費合計 ○○○○○円</p> <p>（イ＋ロ＋ハ＋ニ）</p>
経費区分	金額（円）	主な積算内訳（円）
間接経費・一般管理費が含まれていない経費	イ. 物品費	小計
	設備備品費	※購入を認めない。
	消耗品費	※消耗品の上限は、5万円とする。それ以上は、原則備品の扱いとなる（明らかに消耗品である場合を除く）。
		※高額上位5項目を個別に記入、残りは一式計上可能
	ロ. 人件費・謝金	小計
	人件費・賃金	3,300,000 (例)研究員・ポスドク相当（1人、10ヶ月）
		468,000 (例)資料整理賃金
		3人×20日×@7,800 = 468,000
	謝金	※高額上位5項目を個別に記入、残りは一式計上可能
		(例)講演のための講師（○○大学 ○○太郎教授）の招へい
	2人×2時間×@9,300 = 37,200	
	(例)研究協力謝金	
	5人×2回×@1,000 = 10,000	
	※研究協力者等に支払う謝金。研究代表者及び研究分担者に支払う謝金は対象外。	
ハ. 旅費	小計	
国内旅費	56,000 (例)日本○×学会第103回大会での発表（つくばー愛媛；2泊3日）	
	126,000 研究打合せ旅費（つくばー京都；1泊2日 3回）	
	※国内旅費は、研究代表者、研究分担者、研究協力者が対象。	
	※当該研究に直接関係のない調査・研究に関する旅費は対象外。	
外国旅費	436,000 (例)第3回国際△×学連合大会参加・発表（○○国▲▲市；3泊5日）	
	※学生の単独出張は認めない。	
	※その他国内旅費の留意事項を準用	
委員等旅費	※研究協力者等に支払う旅費。	

	外国人招聘滞在旅費 二. その他 雑役務費 印刷製本費 会議費 通信運搬費 光熱水料 その他（諸経費）	※講演等で外国人を招聘する場合の旅費・宿泊費 小計 2,500,000 (例)〇〇での△△同定業務など ※高額上位 5 項目を個別に記入、残りは一式計上可能 ※一般管理費及び間接経費がない役務等業務経費を記載すること。 50,000 (例)論文別刷り代金 ※高額上位 5 項目を個別に記入、残りは一式計上可能 ※高額上位 5 項目を個別に記入、残りは一式計上可能 ※高額上位 5 項目を個別に記入、残りは一式計上可能 ※高額上位 5 項目を個別に記入、残りは一式計上可能 1,800,000 (例)〇〇機器リース代 $6 \text{ ヶ月} \times @300,000 = 1,800,000$ 300,000 (例)研究打ち合わせ会場借料 $5 \text{ 回} \times @60,000 = 300,000$ ※高額上位 5 項目を個別に記入、残りは一式計上可能
基本的に間接経費・一般管理費が含まれている経費	2. 外注費内訳 ※基本的に間接経費及び一般管理費が <u>含まれる経費</u> を記載する。※消費税は右記の合計に掛けること。 ※消費税等の必要経費については全て含んだ金額とすることに留意すること。なお、委託費については、総額に消費税が掛かることに留意すること。	【委託費】外注費／【補助金】再委託費 合計 円△△△△△△△
	【委託費】外注 金額（円）	主な積算内訳（円）
	(株)〇〇研究所 1,500,000	(例)〇〇分析費(20 件) 1,000,000

○サブテーマ毎（研究分担機関毎）に計上する経費

※サブテーマ機関のみ記載

※テーマ機関はサブテーマを兼任するが上記表で記載するためここでは記載不要

※サブテーマはテーマ機関との契約になり、基本的には間接経費が掛かるため、間接経費が含まれている経費という扱いにしている。たとえ、間接経費及び一般管理費が不要なサブテーマ研究機関であっても下表に記載すること。

サブテーマ (○) タイトル ○○○○・・・に関する研究	研究者名 ○○○○	研究機関名 ○○○○
3. サブテーマ（再委託）経費及びサブテーマ外注費 ※基本的に間接経費及び一般管理費が <u>含まれる経費</u> を記載する ※消費税等の必要経費については全て含んだ金額とすることに留意すること。なお、委託費については、総額に消費税が掛かることに留意すること。	サブテーマ（再委託）経費及びサブテーマ外注費の合計（イ＋ロ＋ハ＋ニ＋ホ）	△△△△円
経費区分	金額（円）	主な積算内訳（円）
イ. 物品費	小計	
設備備品費		※購入を認めない。
消耗品費		※消耗品の上限は、5万円とする。それ以上は、原則備品の扱いとなる（明らかに消耗品である場合を除く）。
ロ. 人件費・謝金	小計	
人件費・賃金	3,300,000	(例)研究員・ポスドク相当（1人、10ヶ月）
	468,000	(例)資料整理賃金 3人×20日×@7,800 = 468,000
謝金		(例)講演のための講師（○○大学 ○○太郎教授）の招へい 2人×2時間×@9,300 = 37,200 (例)研究協力謝金 5人×2回×@1,000 = 10,000
		※研究協力者等に支払う謝金。研究代表者及び研究分担者に支払う謝金は対象外。
ハ. 旅費	小計	
国内旅費	56,000	(例)日本○×学会第103回大会での発表（つくば－愛媛；2泊3日）
	126,000	研究打合せ旅費（つくば－京都；1泊2日 3回）
		※国内旅費は、研究代表者、研究分担者、研究協力者が対象。 ※当該研究に直接関係のない調査・研究に関する旅費は対象外。 ※【委託費】単なる学会出席等に関する旅費は対象外。
外国旅費	436,000	(例)第3回国際△×学連合大会参加・発表（○○国▲▲市；3泊5日）
		※学生の単独出張は認めない。

基本的に間接経費・一般管理費が含まれている経費

委員等旅費		※その他国内旅費の留意事項を準用
外国人招聘滞在旅費		※研究協力者等に支払う旅費。 ※講演等で外国人を招聘する場合の旅費・宿泊費
二. その他	小計	
雑役務費	2,500,000	【委託費】 (例)〇〇での△△同定業務など ※一般管理費及び間接経費がない役務等経費を記載する。
印刷製本費	50,000	(例)論文別刷り代金
会議費		
通信運搬費		
光熱水料		
その他 (諸経費)	1,800,000	(例)〇〇機器リース代 6ヶ月×@300,000 = 1,800,000
	300,000	(例)研究打ち合わせ会場借料 5回×@60,000 = 300,000
ホ. (間接経費の掛かる)		
外注費		
(株)〇〇研究所	1,500,000	(例)〇〇分析費(20件) 1,000,000

⑰間接経費 ※

間接経費の必要性 (代表研究機関 or サブテーマ (〇))	<input checked="" type="radio"/> 必要 ・ <input type="radio"/> 不要
--------------------------------	--

※間接経費が必要な場合、府省間の取り決めにより申請時点では一律 30%で計算します。

⑱添付書類の有無

(該当する書類が有る場合は添付して応募すること)

※法人登記簿抄本は、民間企業、その他法人のみ必須 (テーマ研究機関他サブテーマ機関全て必要)。コピーの提出でも可。

(1) 法人登記簿抄本	(2) その他
<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無	(その他添付書類がある場合はその内容を記入してください。) (例：研究方法説明資料 1部)

⑲発表業績

(1人あたり 10件、全体で 20件まで記載可)

※右端の欄に、推進費で実施した研究成果は◎、推進費ではないが環境省で実施した研究成果につ

いては、○を記載すること。

この研究に直接関係のあるもののみ記載可		
(テーマ/サブテーマ (○)) 研究代表者・分担者の別	著者氏名・論文題名・学協会誌名・発表年 (西暦)・巻号 (最初と最後の頁)	◎
(テーマ) 研究代表者	(例: 英語) Taro Tokyo, Hanako Kyoto: "Arsenic Exposure in Bangladesh and its Impacts on Maternal and Child Health", J. Biochem., 2011, 54(3), 524-531.	○
(サブテーマ (○)) 研究分担者	(例: 日本語) 東京太郎, 京都花子: "バンングラデッシュにおけるヒ素暴露とその妊婦や子供の健康に及ぼす影響", 環境研究, 2011, 15(6), 134-142.	

㊦研究課題に関する参考図 (任意)

※参考図は2枚 (2ページ) 以内とします。

※カラー図表の挿入は不可

※カラー図表が挿入されている場合であっても、白黒で印刷し、評価を行う。